



## 学校がある意味

校長 佐々木 秀之

梅雨の晴れ間の中に、夏の日差しを思わせる太陽が照りつける頃となりました。臨時休業中は、お子様が家庭学習を行うにあたり、保護者の皆様に学習の支援をしていただきましたこと、心より御礼申し上げます。学校は再開しましたが、感染症拡大以前のような教育活動の全面的な再開となったわけではありません。活動にも多くの制限がある中、感染予防対策を講じながら教育活動を進めてまいります。

\*

先日、自宅近くで小学校低学年くらいの男の子とお母さんが、私の前を並んで歩いていました。

子「僕の将来の夢はねえ、学校の先生になること。」 母「そうなの。どうして？」 子「だってね、僕の先生とっても優しいし、おもしろいんだ。だから、学校に行くのが楽しみなんだもん。」

という会話が聞こえてきました。まさに「教育は人なり」です。学校教育に携わる者として心から嬉しく思うとともに、あらためて学校を楽しみにしている子供たちがいるということに身が引き締まる思いでした。

新型コロナの影響で、報道等ではオンライン授業などが取り上げられ、学校教育の在り方が大きく問われています。明治以降、150年以上続いている日本の学校教育の在り方は、諸外国と大きく異なる部分があります。それは、教員の子供へのかかわり方です。諸外国では教員の業務は「授業」に特化していますが、日本は授業だけでなく、給食指導や清掃指導、集団生活を送る上での生活指導まで一体的に行っています。このような日本型学校教育は、実は国際的に評価が高く、海外でも参考にされているほどです。しかし、一方で、現在の学校教育現場において子供を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、今後取り組まなければならない課題も少なくありません。

グローバル化や人工知能の飛躍的な進歩によって加速度的に変化する社会に応じた教育も、次世代の学校においては非常に重要です。より広い視野を持ち、予測が難しい社会の中で生き抜く力を付けるための実践的教育が必要になります。コロナ禍に直面している今、あらためて『教育』の意味と価値、また、『学校』の在り方を再考していく必要があると思います。

\*

しかし、教育の目標は教育基本法に定められているように『人格の完成』です。学校の教育活動全てが人格形成のために行われている教育活動です。教育基本法でいう教育は学校教育だけではありません。家庭教育、社会教育など全ての教育を指し、全ての教育が『人格の完成』のために行われています。

学校は、ご家庭同様、心豊かにたくましく成長するよう、教職員の英知を結集し、誠心誠意教育活動を進めて参ります。しかし、学校のみでは限りがあります。学校及び家庭が共に手を携え合い、地域の方の力をお借りして、協力して子供たちを育てていくことが大切です。

コロナ禍で試行錯誤ではありますが、「この学校に通わせてよかった。」と皆様と喜び合えるよう、努力してまいります。